

ゆかりの人々 People

ゆかりの人々 > 知られざる偉人 > 飯沼金太郎さん

飯沼金太郎さん 女性飛行士の育成



白菊号の命名式。左から松本キク子、1人おいて床次大臣、飯沼（写真提供：大谷妙子さん）



馬淵テフ子に花束を渡す飯沼の長女、妙子さん（写真提供：大谷妙子さん）

松本キク子と馬淵（まぶち）テフ子、満洲親善訪問海外飛行成功

松本キク子は、水上飛行機の操縦資格を安藤飛行機研究所で習得していた。しかし、満洲海外飛行を計画していたので、陸上飛行機の機種拡張試験（機種限定を変更する試験）に合格する必要がある。そのため、安藤所長が親交のある飯沼に頼み、松本は垂細亜航空学校に入校。飯沼の自宅に寝泊まりして練習を開始する。

1934（昭和9）年10月22日、日本・満洲親善飛行のため、白菊号（※1）に搭乗。羽田を離陸し、11月4日に満洲新京（現在の長春）に到着（※2）、無事成功した。海外飛行を行った日本人女性は、松本が最初である。

続いて、馬淵テフ子も「黄蝶号」（機種は、白菊号と同じ）に搭乗し、同年10月26日に羽田を離陸、11月5日に新京に着陸した。垂細亜航空学校は、女性2人が海外飛行に成功するという快挙を成し遂げたのである。

その後、松本キク子は垂細亜飛行学校の操縦助教官として女子部の教育を担当する。当時22歳であった。

※1 命名は、戦前の衆議院議員、通信大臣の床次（とこなみ）竹二郎。機種はサルムソン2A2型機

※2 満洲国新京（現在の長春）までに離着陸した飛行場

羽田飛行場→浜松陸軍飛行場（一時機体整備）→大阪木津川飛行場→福岡大刀洗陸軍飛行場→朝鮮半島蔚山飛行場→京城の手前で不時着、陸路京城にて機体整備後→京城飛行場→新義州の飛行場→満洲国奉天（現在の瀋陽）東飛行場→新京の飛行場

松本キク子、ハーモン・トロフィー受賞

1935（昭和10）年3月、日本における女性飛行家の第一人者（日本女性飛行家の海外飛行第一号）として、松本キク子は帝国飛行協会から推薦され、フランスの国際航空連盟よりハーモン・トロフィー（※3）授与される。一緒に届いた終身会員証番号は31番であった。なお、その前の30番は、太平洋単独無着陸横断飛行に成功したリンドバークである。

※3 クリフォード・B・ハーモン（国際航空連盟会長）によって1926（昭和元年）設立。同トロフィーは、その年の優秀な操縦士に贈られる